

「害鳥の追い払い手続きのICT化による短縮」

会津大学 産学イノベーションセンター

大学参加者名	畠 圭佑 准教授
参加自治体	会津若松市
(1) 調査研究の課題・背景	<p>会津若松市においては地域住民や事業所と連携をして、ムクドリやカラスといった害鳥の追い払い事業を行なっている。一方で、連絡方法としては電話通報を受けた後に職員が確認に行き、該当する町内会や事業所と電話のやりとりなど行いながら追い払いを行うスケジュールを調整して市役所で保有する追い払いの道具などを貸し出して行うというもので、追い払いまでに数日から1週間のタイムラグが発生してしまうものである。そこで、本調査研究はこの連絡調整のための手法をICT化するとともに、効果的な追い払いについても言及を行う。</p>
(2) 令和4年度調査研究活動内容	<p>本年度の調査研究内容は以下である：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 市役所担当者への聞き取り調査 会津若松市役所担当者へ、現在の害鳥追い払いについて、市での対応方法や現状などの調査を行うと共に、これまでの害鳥追い払いの履歴などの聞き取りや、市としてはどのような方向で事業を改善していきたいかなど調査を行った。 2) ICTツールによる連絡調整の改善調査 近年、さまざまな連絡とスケジュール調整を行うツールが登場しており、それらの調査を行うと共に適した機能についてまとめていく 3) 効率的な追い払いについて 市より要望があった効率的な追い払いについて、近年のICT技術で可能になりそうなものについて調査を行った
(3) 令和4年度時点の結果	<p>本年度は市と住民の協力を踏まえた連絡体制のICT化という点において、連絡調整ツールの調査と機能をまとめた。これらについては特に事業者との害鳥追い払い連携について利用可能なものとして想定している。また、効率的な追い払いについても協議を行い、街路樹や電線に留まっている鳥の数をカウントするツールなどについて調査を行った。</p>
(4) 提言または今後の展開	<p>今後については、鳥害追い払いについて協力関係にある事業者が利用する前提で、対象事業者へのヒヤリングも含めた調査が必要であると考えられる。また、実際の利便性について試用を行っていくことが考えられる。 さらに、効率手な追い払い方法についても併せて調査研究を行い、市役所業務の補助となるツールについての試作実証など必要に応じて行っていく。</p>